Museum News
見て 学ぶ 楽しく
博物館ニュース
徳島県立博物館
No.88

日本のわざと美

北村昭斎　瑞鳥唐花文螺鈿箱　　平成16年　文化庁蔵（※11月6日から11月25日まで展示します）

北村昭斎氏（74歳）は、奈良在住の漆芸家で、1994（平成６）年に選定保存技術「漆工品修理」、1999（平成11）年に重要無形文化財「螺鈿」の認定を受けました。

氏は、やはり選定保存技術保持者であった父大通氏（故人）のもとで技を修得し、東京芸術大学美術学部工芸科を卒業しています。正倉院宝物や国宝・重要文化財をふくむ、数多くの漆工品の保存修理、復元模造を手がけてきました。創作活動でも、日本伝統工芸展で受賞を重ねています。

夜光貝、鮑、蝶貝などの貝には、殻の内側に明るく輝く層があります。螺鈿は、この部分を取り出して器面にはめる装飾法です。瑞鳥唐花文螺鈿箱は、夜光貝と白蝶貝を用い、氏があみだした独自の発色法も採られています。地には金粉を蒔き、蓋の稜などに玳瑁（べっこう）をめぐらしています。

徳島県立博物館では、2012年10月20日から11月25日まで、企画展「『日本のわざと美』展 －重要無形文化財とそれを支える人々－」を開催します。

（美術工芸担当：大橋俊雄）

Culture Club

答礼人形「ミス徳島」と米国ノースウェスト芸術文化博物館
―徳島平和ミュージアムプロジェクト余録―

長谷川 賢二

答礼人形「ミス徳島」

2010年度、当館を中心として行った「徳島平和ミュージアムプロジェクト」において、アメリカ合衆国ワシントン州スポケーン市にあるノースウェスト芸術文化博物館(Northwest Museum of Arts & Culture、以下では公式の略称であるMACと表記)が所蔵する人形「ミス徳島」が里帰りしました。そして、県内4か所での展示によって1万人以上もの人々にご覧いただきました。

ところで、「ミス徳島」の由来は、1927年にさかのぼります。当時、悪化しつつあった日米関係を憂慮した宣教師シドニー・ルイス・ギューリックと実業家渋沢栄一を中心として、両国間で友情の人形交流が行われました。まず、米国市民の善意によって集められた「青い目の人形」約12,000体が、ひな祭りにあわせて日本に贈られました。それに対するお礼として、各府県等の代表58体の答礼人形と道具類が、クリスマスに間に合うよう米国に送り出されました。「ミス徳島」は、このときの人形なのです。

本縣兒童の愛情のこもった
手紙數通を添へて
アメリカへ贈るお人形

写真1
「ミス徳島」について報道した新聞(徳島毎日新聞1927.9.24)。

文書が語る収蔵の経緯

素朴な疑問があります。どうして「ミス徳島」はMACに収蔵されたのでしょうか。

この答えは、MACに保管されている文書の中にありました。「ミス徳島」の返納時に大原賢二館長(当時)が訪問した際、収蔵経緯にかかわる書簡(1928～1930年)などのコピーが提供されました。これらから分かる当時の状況を紹介しましょう。

なお、博物館の名称は、設立された1917年以来、数回の変更を経ていますが、ここでは便宜上、通時的にMACと表記します。

発端は1928年7月のことです。ギューリックが事務局長を務め、人形交流の推進主体となった世界児童親善会は、答礼人形を各州に配布するため、受け入れ希望を募っていました。しかし、ワシントン州からは希望がないので、MACに対し受け入れを打診しました。親善会は、子ども博物館等での常設展示を望んでいました。

これに対し、MACから受け入れの意向を返答し、もともと子ども博物館として設立され、

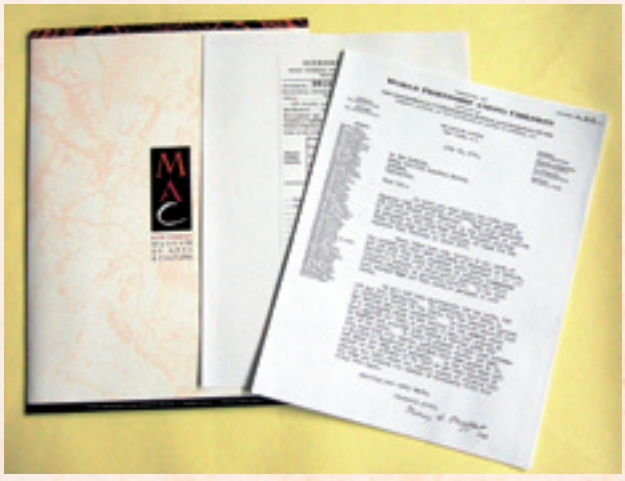


写真2　MACから提供された資料。

1928年現在も子ども部門を擁していることなどを伝えました。

10月、MACに答礼人形1体が配布されることに決まったという連絡がありました。人形はロサンゼルスに集められており、そこから発送されるということでした。ただし、1927年の米国到着以来、人形は数体ずつ組み合わせて各地で巡回展示されたため、整理がついていない状態でした。また、付属する道具類の大半はニューヨークの倉庫にありました。

ロサンゼルスの担当者が辞職するなどの混乱があったため、1929年1月22日、ようやく人形発送の連絡がMACに送られました。このときに初めて「ミス徳島」の名が伝えられたのです。「ミス徳島」が選ばれたのは、特別な理由によるものではなかったようです。そして、1月29日、「ミス徳島」はMACに到着し、遅れて道具類も届きました。

写真3　当館で展示された「ミス徳島」(右)。左は、徳島県で唯一現存している「青い目の人形」アリス(神山町神領小学校所蔵)。

写真4　MACの中心施設。先住民等の文化、地域史、美術を主たるテーマとし、展示や教育活動などを展開している。大原賢二氏撮影。

偶然が結んだ縁

「ミス徳島」がMACに収蔵されたのは、偶然の結果といえます。また、人形の取り違えがあったため、MACにある「ミス徳島」は、本来は「ミス岐阜」であった人形とみられています。発送までの混乱から、それも仕方なかったのだろうと思います。この人形が徳島県ゆかりのものとして受け入れられ、80余年後の今も大切に守られていることに意義があるでしょう。

(歴史担当)

第27回国民文化祭・とくしま2012　特別協賛事業

平成24年度企画展

「日本のわざと美」展

―― 重要無形文化財とそれを支える人々 ――

日本の工芸分野において、「人間国宝」と呼ばれる重要無形文化財保持者（のべ 167 名）の作品、同保持団体（14 団体）の作品、工程見本、選定保存技術（21 件）の関係資料を展示します。陶芸・染織・漆芸・金工・木竹工・人形・手漉和紙・截金・撥鏤などの各分野で長年にわたり培われてきた、最高水準の技の粋をご堪能下さい。

また、阿波藍製造のような、制作を支える選定保存技術についても、理解を深めていただければ幸いです。期間中は展示替えを行います。

会　　期：平成24年
10月20日(土)～11月25日(日)
月曜休館

展示替え：前期10月20日(土) ～ 11月 4日(日)
後期11月 6日(火) ～ 11月25日(日)

会　　場：博物館１階企画展示室・
２階常設展示内部門展示室（人文）

主　　催：文化庁・徳島県教育委員会・徳島県立博物館
特別協力：東京国立近代美術館

観覧料　一般200円、高校・大学生100円、小・中学生50円
※20名以上の団体は2割引　※障がい者および介護者は無料
※土・日・祝日は高校生以下無料　※高齢者（65歳以上）は半額
※学校教育による利用は無料

関連行事

①スペシャル・ギャラリートーク
講師：佐々木正直氏(文化庁主任文化財調査官)
日時：10月20日(土)　14:00より(1時間ほど)
場所：企画展示室・常設展示内部門展示室(人文)
備考：申込不要、ただし企画展観覧料が必要です

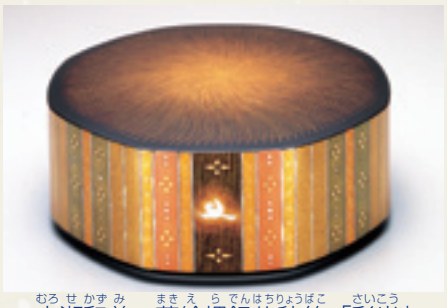
②製作実演「伊勢型紙」
講師：伊勢型紙技術保存会
日時：10月20日(土)・10月21日(日)
両日とも10:00～12:00、13:00～16:00 (随時)
場所：２階常設展示受付前
備考：申込不要、観覧無料

③ワークショップ「伊勢型紙を体験しよう」
講師：伊勢型紙技術保存会
日時：10月21日(日)　10:00～12:00、13:00～16:00 (随時)
場所：２階常設展示受付前
対象：小学生以上(小学生は保護者同伴)
備考：申込不要、参加無料、ただし先着50名様に限ります

④記念講演会
講師：室瀬和美氏(重要無形文化財「蒔絵」保持者・公益社団法人日本工芸会副理事長)
演題　「漆芸の世界－蒔絵の美－」
日時：11月４日(日)　13:30～15:00
場所：文化の森イベントホール
備考：申込不要、聴講無料

⑤製作実演「久留米絣」
講師：重要無形文化財久留米絣技術保持者会
日時：11月17日(土)・11月18日(日)
両日とも10:00～12:00、13:00～16:00 (随時)
場所：２階常設展示受付前
備考：申込不要、観覧無料

十四代酒井田柿右衛門　濁手枝垂桜文鉢
平成２年　文化庁



室瀬和美　蒔絵螺鈿八稜箱「彩光」
平成 12 年　文化庁

田島比呂子　友禅訪問着「雲表に咲く」
平成 12 年　文化庁

情報ボックス

身のまわりの植物で簡単紙漉き

みなさんは牛乳パックで紙を漉いたことがありますか。牛乳パックからは簡単に紙の材料になるパルプを取り出すことができますので、経験された方も多いのではないでしょうか。

しかし、パイナップルやトウモロコシなど、皆さんが食べている野菜や果物のような身の回りの植物からも、パルプを簡単に作ることができ、紙漉きの材料として使えます。今回はその方法を紹介しましょう。

では、パイナップル（図A）を例に説明しましょう。この実を食べる時には、皮をむいて芯を取り、中の黄色い部分を食べます。皮や葉はゴミとして捨てられてしまいますが、紙作りにはその部分が役に立ちます。皮や葉、芯を1～2cmの大きさに切り、タッパーなどの密閉できる容器に入れます。そこに、台所用か洗濯用の漂白剤と水を入れます。漂白剤と水は同量を基本とし、濃くすれば処理が早く進みますので、状況を見ながら調整します。漂白剤は必ず水酸化ナトリウムを含むものを使ってください。蓋をして風通しと日当たりの良いベランダや地面に置きます。5日ほどで漂白剤がしみ込んで変色し、柔らかくなってきます（図B）。目の細かいザルに移し、軽く水洗いし、ミキサーで細かく砕きます。水をよく切り、再びタッパーに入れて、漂白剤と水を注ぎます。10日もたてば、図Cのように白くなります。再度、水洗、ミキサーで粉砕後、タッパーに戻し、薄めた漂白剤を注ぎます。翌日には、真っ白になって、パルプの状態になりますので、目の細かいザルに移し、水を少しずつ流しながら、2時間以上漂白剤を洗い流します。できたパルプを水と共にミキサーでよく撹拌し、大きめの容器に入れます。そして紙漉き枠を浸して、紙漉きをします。紙漉き枠は市販のものもありますが、100円ショップで手に入る材料で自作できます。できた紙の上下に布をかぶせて、新聞紙で挟み、重石を乗せて乾燥させると紙になります（図D）。

今までは、水酸化ナトリウムの濃い液を使ったり、鍋で長時間煮て、パルプにしていました。この方法を使えば、簡単に手に入る漂白剤を使い、加熱することもありませんので、気軽に紙を作ることができます。ビールのおつまみの枝豆の鞘をペットボトルに集めておいて、たまったら漂白剤で処理して、枝豆の紙を作ることもできます。

なお、詳細は来春の部門展示で紹介する予定です。

（植物担当：小川　誠）

部門展示
「簪と櫛・身近な草木で紙づくり」
会期：2013年2月5日（火）～4月7日（日）
※常設展観覧料が必要です。

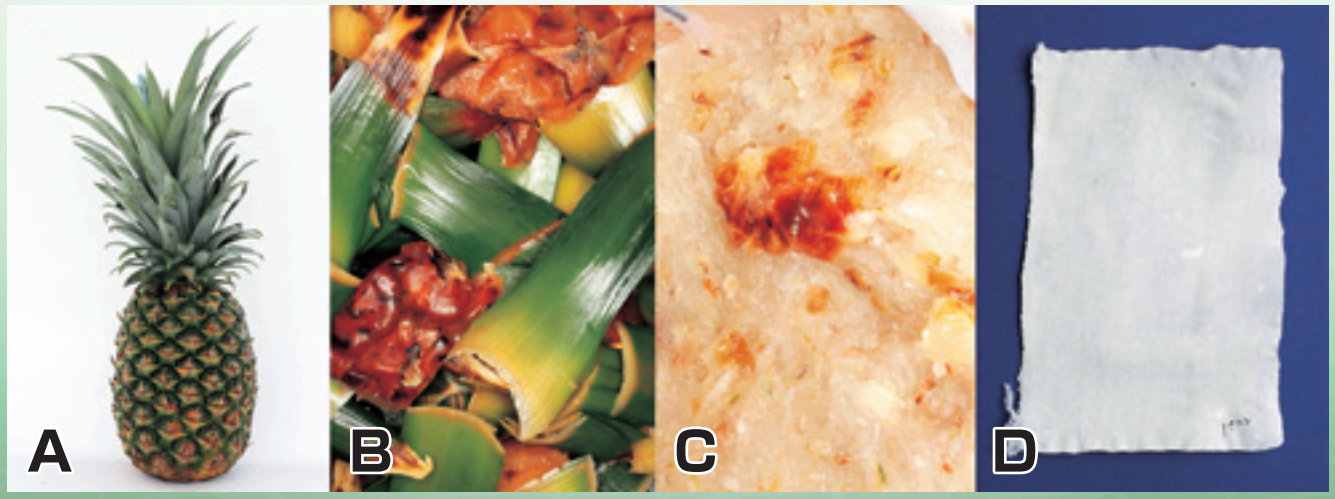


図　パイナップルが紙になるまで

野外博物館

天海山の二枚貝化石モノチス

那賀町（旧・木頭村）の小見野々ダムの北方にある天海山（標高 1085 m）からは、二枚貝の化石が産出することが、古くから知られています（図１）。初めて学術論文で紹介されたのは、1911 年のことで、東京帝国大学の横山又次郎教授が「地質学雑誌」に旧・木頭村から採集された三畳紀の二枚貝化石について報告しています。この発見により徳島県にも三畳紀（約 2 億 5000 万年～約 2 億年前）の地層が分布していることが明らかになりました。

天海山で主に産出するのは、モノチスと呼ばれる海生の二枚貝化石です（図２）。殻は薄く、半円形をしており、強い放射状の肋があるのが特徴です。モノチスは、世界中の三畳紀後期（約 2 億 1000 万年～約 2 億年前）の地層から産出することから、三畳紀後期の示準化石になっています。示準化石とは、その化石が産出することで、地層が堆積した時代を決定することができる化石のことを言います。

昨年 2011 年に、地質調査の一環で、徳島化石研究会の方に案内してもらい、天海山のモノチスの産地状況について確認を行いました。案内していただいた徳島化石研究会の方も久しく産地に訪れておらず、地形図で産地へのルートを確認しつつの調査になりました。以前は、山に入る人が多かったため、林道は比較的整備されていたらしいのですが、近年では、あまり林道も使われなくなり、一部の場所では草木を押し退けての探索になりました。片道４時間近くかかりましたが、天海山の化石産地にたどり着くことができました（図３）。産出量は決して多くはありませんが、砂岩や泥岩中に含まれているモノチスを確認できました（図４）。

奇遇にも、私たちが天海山を訪れたのは、初めて天海山から二枚貝化石が報告されてから、ちょうど 100 年にあたる年でした。

（地学担当：辻野泰之）

図１　那賀町（旧・木頭村）にある天海山周辺の地図

図２　天海山の三畳紀層から産出したモノチス

図３　天海山の化石産地の様子

図４　砂岩や泥岩中に含まれるモノチス

Q and A 「大阪」と「大坂」は同じ意味ですか？

「大阪」と「大坂」は、ともに大阪のことを指しますが、厳密には以下のちがいがあります。大阪は、江戸時代には「大坂」と記され、明治に入ってから「大阪」と書かれるようになりました。この点を、徳島県立博物館が所蔵する資料で確認してみましょう。

図１は、1614・15年の大坂冬の陣・夏の陣に関わる資料です。徳川方の武将が大坂方の武将の首をいくつ奪ったか、また、蜂須賀家の家臣が長宗我部盛親（元親の子）を捕縛したことなど、当時の戦いの様子が記されています。この資料には、作成された年代が記されていませんが、江戸時代（大坂の陣後の17世紀前半ヵ）に作成されたものとみられます。

一方、図２は、徳島藩の絵師として有名な守住貫魚の二男勇魚（1854-1927）の関連資料です。勇魚は徳島に生まれ、父と同様絵を学びます。1875年に東京に行き、当時日本政府に招かれ来日していたイタリア人画家フォンタネージの教えを受けています。1879年には大阪専門学校画学教員をつとめ、その後、第三高等学校や同志社などを経て、1917年まで教員をつとめました。図２は、大阪府が勇魚に対して大阪師範学校の教員を任命したときの資料です。

このように、大阪の「阪」の字は、江戸時代と明治時代を境に使い分けられていました。その理由として、「坂」の字が「土に返る」という意味につながり、縁起が良くないためともいわれますが、はっきりとした理由はわかっていません。また、実際には明治に入ってからも「大坂」が用いられたり、江戸時代でも「大阪」が使用されたりする事例はあります。明治元年（1868）にすべてが変わったのではなく、字の使い分けは、あくまで全体的な傾向だったようです。

（歴史担当：松永友和）

図１　「摂州大坂夏冬共首帳　乾」「摂州大坂御陣冬夏共二首帳　坤」（徳島県立博物館蔵）
「大坂」の字が使われている。

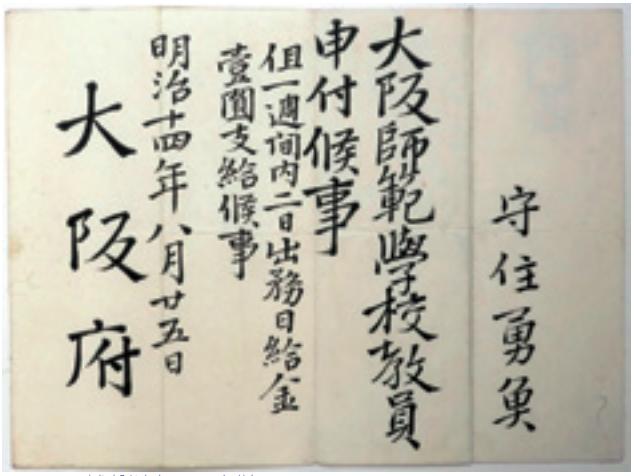


図２　「守住勇魚大阪師範学校教員任命辞令」（徳島県立博物館蔵）
「大阪」の字が使われている。

10月から12月までの博物館普及行事　あなたも参加してみませんか？

シリーズ名	行　事　名	実施日	実施時間	申込	対　象（定員）	備　考
室内実習	顕微鏡で野草かんさつ	10月 7日(日)	13:30～16:30	要	小学校から一般(20)	
	ミクロの世界ー電子顕微鏡で植物を見よう！②	11月18日(日)	13:30～15:30	要	小学校から一般(10)	
	木の葉化石の発掘体験	12月 2日(日)	13:30～15:00	要	小学校から一般(30)	材料費 100円（大学生・一般）
野外自然かんさつ	宍喰浦と竹ヶ島の地質見学	10月 8日(月)	12:00～16:00	要	小学校から一般(25)	現地集合
	那賀川上流の地質見学	10月14日(日)	13:00～16:00	要	小学校から一般(25)	現地集合
	秋の昆虫と植物	10月21日(日)	13:30～15:30	要	小学校から一般(20)	
	花咲き乱れる秋の那賀川を歩こう（相生）	11月11日(日)	13:00～16:00	要	小学校から一般(20)	現地集合
	土柱周辺の地質見学	11月25日(日)	13:00～15:30	要	小学校から一般(25)	現地集合
企画展関連行事	スペシャル・ギャラリートーク	10月20日(土)	14:00～15:00	不要	－	企画展観覧料が必要です
	製作実演「伊勢型紙」	10月20日(土) 10月21日(日)	10:00～12:00 13:00～16:00 (随時)	不要	－	
	ワークショップ「伊勢型紙を体験しよう」	10月21日(日)	10:00～12:00 13:00～16:00 (随時)	不要	小学校から一般(50)	
	記念講演会「漆芸の世界ー蒔絵の美ー」	11月 4日(日)	13:30～15:00	不要	－	文化の森イベントホール
	製作実演「久留米絣」	11月17日(土) 11月18日(日)	10:00～12:00 13:00～16:00 (随時)	不要	－	
歴史体験	土器づくり	10月21日(日)	13:30～16:00	要	小学校から一般(30)	材料費 300円（大学生・一般）
みどりの工作隊	どんぐりごまとウツギの笛を作ろう	10月28日(日)	13:00～16:00	要	小学校から一般(36)	
	リースをつくろう	12月 9日(日)	13:00～16:00	要	小学校から一般(30)	
文化の森大秋祭り!!	博物館フェスティバル	11月 3日(土)	9:30～16:00	不要	－	
歴史散歩	古墳見学（渋野）	11月11日(日)	13:00～15:30	要	小学校から一般(30)	現地集合
	徳島城とその周辺を歩こう	11月18日(日)	13:00～15:30	要	小学校から一般(20)	現地集合
	一宮城を歩こう	12月 2日(日)	10:00～12:00	要	小学校から一般(20)	現地集合
ミュージアムトーク	鳴門海峡海底のナウマンゾウ化石	11月18日(日)	10:00～11:30	不要	小学校から一般(50)	

◎小学生が参加する場合は、保護者同伴です。

普及行事のお申し込みについて

◎１枚の往復はがきには、１行事だけにしてください。
◎行事日の**１ヵ月前から10日前までに**必着で右記までお申し込みください。
◎返信用はがきの住所・氏名も忘れずに記入しておいてください。
◎希望者が多数の場合は抽選とし、詳しいことは当選された方にお知らせします。
◎原則として、参加費は無料です。

往復はがき記入例

<往信の表面>	<返信の裏面>	<返信の表面>	<往信の裏面>
50 〒770-8070 往信 徳島市八万町 向寺山 徳島県立博物館	何も書かないでください	50 〒□□□-□□□□ 返信 あなたの 郵便番号 住所 氏名	1.参加希望の行事名 2.参加希望者全員名（学年） 3.住所 4.電話番号

※お問い合わせは、徳島県立博物館へ（電話 088-668-3636）

博物館友の会に入会しませんか！

博物館友の会は、博物館を積極的に利用し、自然や歴史・文化に親しみ、参加・体験しながら子どもから大人まで楽しく学んでいきます。ふるってご入会ください。

■半年会費（10月～３月）　・個人会員 1,000円
・家族会員 1,500円

■会員の特典

- 年間を通して博物館の常設展、企画展の観覧料が無料になります。
- 友の会の楽しい行事に参加できます。
- 友の会の出版物やミュージアムショップの品物を割引価格で買うことができます。
- 催し物案内、博物館ニュース、会報等が送付されます。

くわしくは友の会事務局まで（電話 088-668-3636）

川田川の水生昆虫観察（2012年８月11日）

■発行年月日　2012年９月15日
■編集・発行　徳島県立博物館　〒770-8070　徳島市八万町向寺山　TEL088-668-3636　FAX088-668-7197
http://www.museum.tokushima-ec.ed.jp